

辰巳会会員便り

小原多喜子

樹々の緑がひととき深く美しく映える季節となりました。過日は辰巳会全国大会に出席させていただきました。有難うございました。一年振りに皆様の御健やかなお顔を拝見しましてとても嬉しゅうございました。来年も又元気ならば出席させていただきます。

只今は又当日の記念写真とスナップ写真お送りいただき有難うございました。早速アルバムに貼らせていただきます。

当日の私の話突然の事として何からお話しをしていいのかわからずとりとめもない事を話してしまいました。思出はまだまだいっぱいあります。思出はまだまだいっぱいあります。思出はまだまだまだいっぱいあります。

会が終って久し振りに三宮セントー街、南京町から五丁目のみなせで筆を買い、神戸駅から土山の

娘のところへ行きました。

さて五日は相生、又その翌日は故郷の龍野へゆき、小学校時代の友達などに会って来ました。日曜日に神戸駅で途中下車し、湊川神社にお詣りして多治見に帰って来ました。休むまもなく月曜日小原流名古屋支部のいけばな研究会に出席し、又翌日は博物館で二十日からの書道展で、又名古屋へと忙しい日々でした。昨日は又教室へ行かなくてはいけないので名古屋まで出かけます。八十過ぎて元気に歩きまわれるのは本当に有難い事です。これからもからだに気をつけて元気にくらしませう。

来年も又お目にかかれる日を楽しみにしております。ではとりいそぎ一筆御礼まで。どうかお元気で、皆様よろしく。かしこ
五月二十六日

愛場 昭子

前略

突然お便り致します。私は唐戸登美の長女でございます。

このたびは「たつみ」第60号をお送りいただきましてありがとうございます。ございました。

又、母の短歌を掲載いただきまして、重ねてお礼申しあげます。大変びっくりいたしました。実は、ご報告がすっかりおくれでもうしわけございませんが、母は昨年(平成八年)五月三十日に肝不全により八十八才で永眠いたしました。昨年二月に米寿の祝を子供や孫たちでいたしました。三月に入り体調をくずしまして、杉並の私の家で療養いたしておりました。体力を持ちなおした時もありましたが、五月中旬頃から再び少しずつ体調が低下してゆき、五月三十日にねむるよう旅立ってゆきました。

子供や孫たちにかまれて自宅を最後をすごすことが出来、母もゆったりとした気持ちで毎日を送りました。又、私も少しでも親孝行らしいことが出来たのではとありがたく思っております。

短歌への思いはぎりぎりまで頭の中から離れることもなく、これ

が母の生きがいであったように思います。のせていただいた短歌は二月から三月にかけての時期にお送りしたのではないかと思っております。

長い間のご厚情ありがとうございました。皆さま方も健康でお過ごし下さいますよう、心からお祈り申しあげます。

たつみ会の皆様
一月二十八日

山本 政江

此度、夫 山本勇治 七月二十九日 永眠いたしました。九十六才と云う年令で静かに天寿を全ういたしました。

長い間会員としていろいろお世話になりました。若い頃は旅行にも参加させて頂き楽しい一日をすごさせて頂きました。年令を重ねると共に行けなくなり、近くの散歩と趣味を楽しむ毎日でございます。

おしらせと共に一筆お礼まで。
辰巳会御中

物 故 者 名 簿

(「たつみ誌」60号以降)

辰巳会事務局

御 芳 名	死 亡 年 月 日	享 年	鈴木時代の職歴又は現職
若 月 琢 一	昭和60年2月	80歳	
吉 武 政 之	平成9年4月29日	89歳	合 同 油 脂 (株)
唐 戸 登 美	平成8年5月30日	88歳	鉄 材 部 タ イ プ ス ト
城 戸 喜 夫	平成8年11月27日	65歳	太 陽 鋁 工 (株)
西 村 正 己	平成9年5月6日	80歳	日 商 岩 井 (株)
山 本 勇 治	平成9年7月30日	93歳	本 店 外 国 通 信 部
植 田 三 男	平成9年8月30日	84歳	日 商 岩 井 (株)
西 村 鏡次郎	平成9年9月10日	92歳	帝 人 (株)
堀 内 宏 展	平成9年9月22日	94歳	本 店 造 船 部 ・ 支 配 人 室
高 畑 ち よ	平成9年11月2日	96歳	
北 村 秋 一	不明		(株) 神 戸 製 鋼 所
安 田 学 石	不明		青 島 出 張 所